



「二つの目」

進路指導主事 小玉 智彦

普段、子どもたちと接しているときには、私たちは二つの目で見ています。未来からの目と過去からの目です。

未来からの目とは、子どもをどのように伸ばしていきたいか（数年後、このように成長していて欲しいか）という姿から現状を見る目です。そうすることで、子どもに足りないことが明確になります。

過去からの目とは、出会った当初どのような状態だったのかという目です。現状ばかりを見てみると、足りない事ばかりに目が行き届き、不満や不安でいっぱいになります。そんな時に過去から現状を見ることで子どもたちの頑張りに目が向くようになります。

私たちは子どもの指導に夢中になると、つい未来からの目で、足りない事をどうにかしようと考えて対応しがちです。苦手なことばかりに目を向けられると誰でも嫌になると思います。しかし、過去からの目で子どもたちの成長を確認し、頑張りを認めてあげることができれば、子どもたちは自信をもち、次はもっと頑張ろうという気持ちに繋がります。さらには、他のことにも挑戦してみようという意欲も出てきます。

進路指導で大切なことの一つには、自分のことが分かり、いろいろなことに取り組んでみようとする気持ちをもたせることだと思います。過去からの目で成長を認めながら、未来からの目で次の目標をもたせる。この繰り返しで、子どもの自己理解、やる気に繋がります。

二つの目、是非、意識して上手に使い分け、役立ててください。

特別支援教育研修「パワーアップ研修会」

■演題■

「なぜこんなに指導が積み重ならないのか」を考える
～特別支援教育で出会った児童生徒から学んだことを通して～

- 1 日時 平成28年8月23日（火）
9:30～11:00
- 2 場所 秋田県立横手支援学校 高等部体育館
- 3 講師 秋田県立横手支援学校
教諭（兼）教育専門監 佐々木 義範
- 4 申し込み
8月10日（水）までお申し込みください。



♡ほっと相談会のご案内♡

- 1 日時
8月 2日（火）、 3日（水）9:00～16:00
10月 11日（火）、 12日（水）9:00～16:00
- 2 場所 横手支援学校 小・中学部校舎
- 3 申し込み
希望日3日前まで、
支援部 阿部潤子宛て 電話、FAXで
①希望日②希望時間③相談内容について、ご連絡ください。

☆これまでの利用状況

4月 1件

〔主な相談内容〕・個別の指導計画・年間指導計画の作成、自立活動の内容について

障害の理解や対応の仕方、日々の授業づくり、教材、個別の指導計画の立て方など、日々感じられていることを一緒に考えられる場にしたいと思います。お気軽においでください。

☆特別支援教育に係るQ&A☆

平成27年2月に、横手市内の幼稚園・保育所、小中学校のみなさまへセンター的機能に関するアンケートを実施しました。今回は、その中の『保護者との連携』の課題について、教育専門監佐々木義範先生に、解決に向けたヒントをお答えいただきましたので、参考にしてください。



【保護者との連携】

Q. 気になる子どもの保護者に対するアプローチのしかたに悩んでいます。どこまで、どのような言葉で話したら良いか、毎回悩むところです。



A. はじめに、担任の気付きを複数の視点（校内・園内委員会）で確認し、保護者に伝えるかどうかを検討します。保護者に伝える際は、子どものできていること、難儀していることの両方を伝えます。難儀していることについては、学校や保育園の支援や援助の方法も伝えます。難儀していることが、家庭ではどのような状況なのかを聞いてみましょう。支援や援助の方法が定まらない場合は、家庭での方法を教えてもらうことも大切です。支援や援助の参考にもなりますし、保護者との信頼関係を築く一歩にもなるでしょう。その後は、できるようになったこと、まだ、難儀していることや新たに課題になっていることを定期的に確認するようにします。そのような取り組みを通して、さらに成長を促すために必要であるというスタンスで、専門機関への相談やお医者さんの受診へとつなげていきます。検診や就学、進学などへ向かうタイミングで紹介すると必然性を実感してもらいやすいでしょう。保護者だけでなく、私たちも一緒に相談したいという立場が保護者の不安を少なくするでしょう。私たち教師や保育士の願いである、子どもの成長につなげたいという考えをしっかりと伝えて保護者と共通理解を図って取り組んでいきましょう。

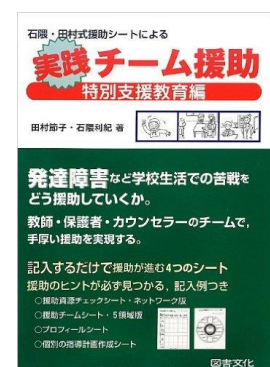
☆書籍のご紹介☆

『石隈・田村式援助シートによる 実践チーム援助 特別支援教育編』

出版社：図書文化

著者：田村節子・石隈利紀

内容：発達障害など学校生活での苦戦をどう援助していくか。教師・保護者・カウンセラーのチームで、手厚い援助を実現する。



ある子どもが苦戦しているときに、子どもの周りにいる大人たちが集まって、子どもの状況について情報を交換し合ったり、「いまは子どもの気持ちが落ち着くようにしよう」「学校生活が充実するようにしよう」などのように援助方針を共有して、それぞれの立場を生かして、その子のためにできることをしていこうというのが、チーム援助の考え方です（書籍 P.16 より）。保護者は、援助チームの中で子どもの最も身近にいて、最も強力な援助者です。保護者との信頼関係を築きながら援助を進めるためのヒントがたくさん書かれています。

教育相談等の問い合わせ先



県立横手支援学校

教 頭 阿部 洋一

TEL0182-33-4166

高等学校特別支援隊については、教 頭 板井 亙

TEL0182-33-4167

派遣依頼文は横手支援学校ホームページ(<http://www.yokote-s.akita-pref.ed.jp/>) からダウンロードできます。

